厄年とは陰陽道で教宣されている、災難が多く降りかかるとされる年齢の事である。
一般的に男性は、２５歳・４２歳・６１歳　女性の場合は１９歳・３３歳・３７歳・６１歳とされている。（いずれも数え年）特に、男性の４２歳と女性の３３歳は大厄とされ、凶事や災難に遭う率が非常に高いので充分な警戒を要するとされ、語呂合わせでも「死に」・「散々」に通じるとされている。
いずれの厄年にもその前後一年間に前厄（前兆があらわれる）と後厄（厄が薄らいでいく）の期間があり本厄と同様に注意するべきとされている。１９歳・２５歳は青春期に当たることから、何事にも向こう見ずになりがちであり、それゆえ無茶に遭うことも多い。
３３歳・４２歳は青春期を過ぎ、中高年期への過度期に当たる事から人生のうちでも曲がり角であり、社会的にも責任が重くなり、それゆえ精神的・肉体的にも疲労が多く、又、女性は子育てや主婦として多忙な時期である。いずれにしても体調や精神的に不安定になりやすく、不慮の事故や病気も起こりやすいと言われている。又、還暦は、十干と十二支の組み合わせが六十通りあり、生まれ直すという意味からも赤い頭巾やチャンチャンコが贈られ、さらに長寿を願うものである。それゆえ、神のご加護を受けて凶事や災難を未然に防ぐ習慣から厄払いを行ってきた日本古来の文化である。厄年の時は本人だけでなく、身内にも凶事が多いとも言われている。そのことから、厄払いのご祈祷の後は、近親者や同級会を兼ねながら神様と同じものを食べる事によって厄を分散するとも言われている。
又、近年は八方塞も厄年と言われている。八方塞は陰陽道でどの方向に向かって事を成しても不吉な結果の年とされ、転居・結婚・新しく事を始める事は要注意である。この年は幸運・不運の差が激しい為、厄払いにより神のご加護を頂き、幸運をもたらすものである。

１．駒形神社で差し上げる御守
　開運厄除お守り：一年間身につけてご所持ください。
　ひょうたん　　：ひょうたんは幸福を招くと言われております。ご本人の災難をひょうたんの中に閉じ込めます。神棚の北東に飾り、１２月３１日の夜に蓋を閉めて厄を閉じ込め、翌年のどんと焼きにて成就させます。

２．風習
　①白菜：百歳までの長寿を願う。
　②納豆：皆でかき回し、粘り強くまめな人生をおくる。
　③落花生：殻を破って皮をむき、これから大きな飛躍の年とする。
　④牛蒡：責任ある立場となる事から牛蒡のように地中にしっかり根をはる。
　⑤たわし：亀の甲たわしでこすりあげる。（鶴は千年亀は万年にかけた縁起物）
　⑥薔薇の木に梅干をさしたものを飾る：人生頑張ればトゲにも花が咲く

文責　盛岡市玉山区鎮座　駒形神社　宮司　　高橋龍次
連絡先　　０１９－６８２－１５８８